



令和2年度 宿利原小学校だより

宿っ子

12月号



学校のホームページは上のQRコードからお入りください



「令和2年、年の瀬に思うこと」

校長 有留 盛昭

宿利原小学校の児童は、全員での活動が終わるといつも一人ずつ感想を発表します。前の人のまねをするのではなく、感じたことや思ったことを整理して発表することができます。聞いていて、いつも感心させられます。

テレビを観ていると最近では東京の飲食店の方々が現状について語っている場面によく遭遇します。営業時間の短縮や自粛、「GO TO 事業」の年末年始サービス停止についての、大変な様子が伝わってきます。「一番の書き入れ時」に収入が見込めなくなる苦しさは、当事者でなくても辛い状況だと思います。収入は、人々の暮らしを支えています。

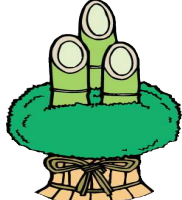
一ヶ月ほど前は、ハロウィンを前にして東京や近隣県の町に在住の方々がその頃の心配事を語っている場面によく遭遇しました。感染拡大が過去最高を記録し始め、第3波という言葉が出始めた頃です。皆口々に「感染が怖い」「GO TO 事業は、しばらくやめるべきだ」と話し、感染予防に行政の協力を訴えていました。感染予防、命は大切です。

この2・3週間の間に、テレビを観ながら皆さんは、どのように感じましたか。テレビで話しているインタビューの言葉やコメンテーターの話を聞き、私たちは共感したり批判したりしながら、それぞれに自分の考えをもつと思います。きっと、それぞれの職業や立場によって、感じることに違いがあるのではないのでしょうか。「様々な情報を正しく集め、多方面から見つめ、総合的に判断し、自分の考えをもつ。」なかなか、難しいものです。

今、学校では「与えられた正解のない社会状況」に対応するために、そして「予測困難な時代に、一人一人が未来の創り手となる」ために、教育活動を進めています。今回の感染症だけでなく、様々な課題に正面から向き合っていける「生きる力」を育てたいです。

さて、いよいよ冬休みが近づいてきました。今年は、14日間のお休みです。感染症予防や感染拡大防止のために例年とは少し勝手の違うお休みになりそうです。

「年忘れ」という言葉がありますが、抱えていたストレス、引きずっていたつらさや悲しみを思い切って捨て、身軽になることができたならどんなに良いでしょう。反対に、汗を流してがんばった記憶、つらさを自力で乗り越えた思い出、楽しかったこと、うれしかったこと、小さいけれど感じた確かな進歩、どれも大切だと感じます。「年忘れ」の一言ですべてを忘れ去ってしまうのではなく、大切なことは自分の記憶にしっかりとどめる。そして、1年を振り返り、新しい年に向けて、決意や目標を決めることを冬休みに是非やってほしいと思います。



最後になりましたが、今年1年間、保護者の方々や地域の皆様方には、本校教育活動に対しまして大きな御理解と御支援をいただきましたことに対しまして篤く感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。それでは、皆様どうぞよい年をお迎えください。